

23 地方自治体

福島県いわき市財政部次長
有村 誠一郎

被災地の現場から



■ 仕事の内容

「復興と再生」に向けて

私が現在勤務する福島県いわき市は、東日本大震災の地震と大津波により大きな被害を受け、さらには福島第一原子力発電所事故による風評被害から、市民と職員が丸となって困難から立ち上がろうと、道のりは平坦ではない中でも懸命に取り組んでいる自治体です。

私は平成25年4月からいわき市の財政部の参事として、予算編成などを通じ「復興と再生」に向けた取組みに携わり、熱い想いを持った市役所の仲間たちと奮闘する日々を送っています。ここは震ヶ関では味わえない「地方の現場」というダイナミックな場所であり、一日でも早い復興に向け、スピード感を持って復興が目に見える形になるよう、迅速な対応が求められています。

地方とのつながりの強い総務省の職員にとって、地方の現場で働けることは大きなやりがいのひとつです。私にとって震災からの復興に立ち向かう、その最前線であるいわき市の一員として身を置おいて仕事をするには何物にも変えがたい経験だと思っています。

■ 総務省について新規採用者へ伝えたいこと

仲間とともに地方のために

総務省に入省して12年を越えましたが、国と地方それぞれの現場で、多くの経験をし、地域への熱い想いを抱く様々な人と出会いました。

私の担当する予算編成の場面においても様々な職員と、昼夜を問わず協議を重ねました。意見がすれ違うことも多々ありましたが、いわき市を再生しようという想いは皆同じであり、その想いを込めた市の予算が出来上がった時、それが充実感として返ってきたことは、決して忘れられない経験です。

そんな経験や出会った一人ひとりが私にとってのかけがえのない財産です。総務省と全国の地方公共団体には同じ想いを持ったたくさんの仲間がいます。仲間と一緒に地方のために汗をかき、その仕事をやり遂げた時、達成感や充実感を皆と一緒に味わえることが、総務省で働くことの醍醐味だと思っています。

ぜひ総務省に立ち寄って、パンフレットだけでは伝わらない熱い想いを直接聞きに来てみてください。地方のために働く職員の生の声がきっとあなたの心揺れ動かしてくれるはずです。

■ PROFILE

Seiichiro Arimura

平成13年10月	総務省採用
	自治大学校庶務課
平成14年10月	自治行政局自治政策課地域情報政策室
平成15年4月	愛知県総務部市町村課
平成17年4月	総務省消防庁総務課
平成19年10月	自治財政局財務調査課財務調査係長
平成21年7月	大臣官房秘書課秘書第四係長
平成22年1月	自治財政局財務調査課助成係長
平成23年4月	自治財政局財務調査課調査統計係長
平成25年4月	福島県いわき市財政部参事
平成26年4月	現職

■ PRIVATE TIME

週末は市域面積が東京23区の2倍以上もある広大ないわき市内を駆け巡っています。

雄大な海や山など大自然の空気を思いっきり吸って、時にはいわき湯本温泉街に立ち寄り、ゆっくりお湯に浸かりながら一週間の疲れを癒しています。充電完了！（写真は震災で被災した店舗の仮設商店街にて、同僚と）



とある 一週間

■ MONDAY

通勤は自転車。災害公営住宅の建設現場を横目に復興への槌音を感じつつ、一週間がスタート。

■ TUESDAY

来年度の予算編成に向けた部内打合わせ。市長カラーを打ち出せるよう、庁内への周知方法を検討。

■ WEDNESDAY

国から交付される復興交付金を有効に活用するため、次回申請する復興事業について、担当部と協議。

■ THURSDAY

復興本部会議に出席。復興事業の進捗状況などを確認し、進捗が遅れている事業には市長から指示が出ます。

■ FRIDAY

市長から東京電力(株)へ原発力損害の賠償請求を行う日。東電に伝達する事項について市長に説明。

地方自治体

関係機関

海外

留学